

## JOMF 派遣医師便り (2017. 7)

### ◆シンガポール◆

## デングワクチン続報

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

この3月にデング熱ワクチンのことをお伝えしましたが、これはその続報です。6月29日、シンガポール保健省 (Ministry of Health) から、デングワクチンについての見解が各医師に伝えられました。

それは、デング熱ワクチンを、今までデング熱ウイルスに感染したことがない人に接種することは、次回の感染に際し、理論上の悪化を否定出来ないというものでした。

これはかねてから、言われているところの二度目の感染時の方が一度目に比べ、重症化しやすいという懸念があることと矛盾しないものであり、多くの臨床家が懸念していたところでしたので、大変、納得のいくものでした。実際、理論上の重症化の懸念はデングワクチンの開発会社である Sanofi 社の関連の方々に、繰り返し尋ねてもみましたが、明らかな返答はなかったので、国としてこうした発表をさせていただいたことは、臨床に携わるものとして大変ありがたいことでした。

デング熱に感染したことがあるかどうかは、血中の Dengue IgG 抗体を調べるという方法で行われます。そのため、一般のクリニックでも採血検体を NUH (National University of Singapore, シンガポール国立大学) または、SGH (Singapore General Hospital, シンガポール総合病院) に送ることで、患者さんの感染歴の有無が判断できます。また、当院を含め、検査室を持っている医療機関でも検査が可能です。

また、3月にもお伝えしましたとおり、今までにデング熱に感染したことが無い人は、感染したことがある人に比べこのワクチンの効果が劣ることもあり、デングワクチンは、既感染者にブースターとして打つことが勧められるという WHO (World Health Organisation, 世界保健機構) の見解もありますので、この検査は有用と考えられます。

今までデング熱に感染したことが無い人が接種することを禁じていたり、検査が義務付けられたわけではありませんが、臨床の現場としては、今後は、デングワクチンを希望される方に対しては、予め、血液検査をすることがルーチンとなっていくと予想されます。

実際、デング熱にかかったことのある患者さんにお尋ねしますと、「もうあんな思いはしたくない」として、予防接種を希望される方は少なからずいらっしゃいます。

シンガポールでも40歳以上では、人口の半分以上が既感染という状況ですので、デングワクチンの接種年齢の上限 (現在は45歳) が拡大されることを、まずは望みたいと思います。